

教員による取り組み

【出前講座】

大学の研究成果を社会に還元する取り組みの一環として、平成13年度から実施しています。100を超える講座を設定し、教員が県内各地の公民館などに伺い、リクエストされた講座を出前開催します。

◆令和元年度 35講座 参加者 約2,300人

【公開講座】

地域のみなさんに生涯学習の機会を提供し、地域振興にも役立てていただくため、公開講座を開催しています。

◆令和元年度 15講座 参加者 943人

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、開催中止となりました。

【公開授業】

親しみやすい科目を中心に、学生と一緒に受講できるようにした授業です。

◆令和元年度 12授業 参加者 延べ1,983人

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、受講中止となりました。

【外国語教育研究所】

県内における外国語教育の拠点として平成13年に設立しました。県内高校生を対象としたグローバル人材育成事業・明石塾、英語コンテスト・明石杯、高等学校連携英語授業などを実施しています。また、海外事業展開をしている県内企業でのビジネス英語研修も2年目となりました。今年度は初の試みとして、オンラインで研究員と県内の高校生たちをつなぎ、様々なトピックについて意見を交換したり、質問し合ったりするディスカッションプログラムを始めました。

◆令和2年度高等学校連携英語授業 計14回

受講した高校生 延べ1,075名

【群馬学センター】

群馬に関する「知の拠点」を目指して、平成21年に誕生しました。年に数回開催している群馬学連続シンポジウムは38回を数え、参加者は累計15,700人となっています。郷土史家萩原進氏の蔵書を中心に約6,500冊の群馬関連の図書を公開しています。

◆令和元年度群馬学連続シンポジウム 2回実施 参加者 800人

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、シンポジウムは開催中止となりました。

【地域日本語教育センター】

外国人への日本語教育、日本語教育を担う人材の育成、生活日本語の研究や教授法、教材等の開発、関係機関との連携などの授業を行っています。

◆令和元年度地域日本語教育講演会 参加者 70人

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、講演会開催は中止となりました。

(参考)地域・社会連携(公開講座等):<https://www.gpwu.ac.jp/ext/>

附属機関の活動:<https://www.gpwu.ac.jp/org/>

【審議会・委員等】

群馬県立高等学校学校評議員/第5次群馬県男女共同参画基本計画検討ワーキンググループアドバイザー/群馬県景観審議委員会委員/群馬県世界遺産専門委員会委員/群馬県立歴史博物館第10回企画展プロポーザル委員/ぐんまで働こう!みんなの活躍促進プロジェクトチーム座長/前橋市社会教育委員/伊勢崎市教育アンバサダー/富岡市立美術博物館協議員/館林市史編さん専門委員/みどり市まち・しごと・ひと創生総合戦略検証委員会委員/玉村町第6期総合計画審議委員会会長/玉村町生涯活躍のまち推進協議会委員/ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク会員機関代表者/エフエムぐんま放送番組審議会委員/上毛新聞オピニオン委員/三陸国際芸術祭海外芸能プログラム・ディレクター/など



公開講座



公開授業



外国語教育研究所



群馬学センター



地域日本語教育センター



群馬県立女子大学

2020

地域・社会貢献活動
報告書

国文学科

なるほど!「絹ラボ」



世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」研究費助成を受けて、活動しています。その名も「絹ラボ」!私たちの研究テーマは、「養蚕ことばにおける方言分布の形成過程と養蚕業の展開」です。養蚕ことばの方言分布地図を解釈しています。

美学美術史学科

学生有志

美学美術史学科

道の駅ららん藤岡の壁画プロジェクト



群馬は多くの埴輪が出土されています。群馬「HANI-1」グランプリを受賞した「笑う埴輪」は、藤岡で出土されました。敷地内に埴輪コーナーを新設するにあたり、壁面を彩るデザインの依頼があり、藤岡市の花「藤」「冬桜」をモチーフに「flowering」が完成しました。開花・隆盛という意味が込められています。

国文学科 英米文化学科 美学美術史学科

国際コミュニケーション学部

回生電動アシスト自転車を用いた社会貢献



太陽誘電(株)との共同プロジェクトとして、同社の技術を搭載した自転車を活用する社会貢献プランの提案に取り組みました。学生がアイデアをまとめ、「国際経済学」の授業でプレゼン発表会を行った後、実際に自転車を利用しながらプランの改善を進めています。

国文学科

全学部

玉村町国際交流教室 日本語教育ボランティア



玉村町の日本語教室で、外国人の技能実習生とお話をしながら楽しく日本語を教えています。違う国籍を持つ学習者同士が日本語で会話をしているのを聞いてうれしく感じます。彼らの国や文化について知ることができると同時に、改めて日本について考えることができる良い機会であると思っています。

美学美術史学科

国文学科 英米文化学科 美学美術史学科

デザインマッチング



デザインゼミ生と県内企業とのマッチング事業を9年前から実施しています。今年度は「サツマイモ収穫体験宣伝用チラシ」をデザインしました。学生は、現地へ出向き実際に収穫体験することで、参加者の気持ちに寄り添いながら企画を進めることができました。2021年秋頃配布予定。

美学美術史学科

玉村町公認インスタグラムで県女生が玉村町の魅力を発信!



玉村町の魅力を学生の目線で発信するインスタグラムアカウント【群馬県玉村町公認】たまたと玉村暮らしを2020年3月に開設しました。本学学生の有志メンバーが運営しています。玉村町のマスコットキャラクターたまたんが「町内の様々な場所を訪れ、イベントやお店の情報を照会する形で、玉村町の魅力を発信しています。」

美学美術史学科

「学校現場でICT教育実践」プロジェクト



玉村町内の小学校で、先生方のICT(情報通信技術)機器を用いた授業や操作の補助、授業提案などを行っています。ICT機器による効率的で効果的な新しい授業を知ることができるのはもちろん、先生方の授業づくりや子ども達とのふれあいや学校現場だからこそ学べるものがあります。

国際コミュニケーション学部

さばたんさい 佐羽淡齋研究会



江戸中期、日本屈指の富豪であり、同時に日本有数の詩人とされながら、久しく忘れられた漢詩人、佐羽淡齋(さばたんさい)の作品の全訳に挑んでいます。かれが生活した桐生の歴史を掘るとともに、東京、横浜、箱根等に残された各地の足跡も辿っています。

国際コミュニケーション学部

美術館でワークショップ 富岡市立美術博物館との連携事業



「アートマネジメント演習1」の授業では、子どもを対象とした美術館での教育普及事業の開発と実践を行っています。2020年度は富岡市立美術博物館との連携事業として、家庭で制作できる工作レシピ集を考案しました。また、ペーパークラフト等の型紙も作成し、地元の小學生に配布しました。

美学美術史学科

近隣中学校での放課後学習教室支援



地域の中学校などで運営されている放課後学習教室に教職を目指す学生が出向き、中学生の自学自習の支援を行っています。学生たちは中学生の皆さんの学びを支えながら、教えることの体験を通じて、「先生への道」を歩んでいます。

美学美術史学科

群馬県立歴史博物館とのデザインによるコラボレーション



地域連携の一環として県立歴史博物館から依頼を受け、3年前から進めているデザインプロジェクトです。2020年度は企画展「空から群馬を見てみよう」のポスター・チラシデザインを行いました。学生らしい優しくわかりやすいデザインに仕上がりました。

芸術の現場へ3



既存の価値観を崩す、ちょっと変わったライブイベントを、地域社会と協働して企画・実施しています。2018~19年度は子ども向けの影絵芝居を制作。オルガン弾き語りの「JON(犬)」、民謡アーティストの「中西レモン」とともに、小学校で上演しました。

やお80映画祭2019 学生部門グランプリ受賞



国際コミュニケーション学部生の2人が、大阪府八尾市で開催されている映画作品コンテスト「やお80映画祭2019」において、学生部門グランプリを受賞しました。2人で協力して一からシナリオを書き、配役を決めて挑んだ作品です。

国際ボランティア大賞 全国大会出場



国際コミュニケーション学部生が、「国際ボランティア大賞2019」の全国大会に出場しました。全国大会では石川県上麦町でボランティア活動を報告しました。このボランティアを通じて、異文化が混ざり合うコミュニティでの臨機応変な対応力が一段と磨かれたそうです。

玉村町第二保育所でワークショップ



「絵画4(彩画)」の課題の1つとして12年間、玉村町第二保育所の年長(5、6歳)を対象に、ワークショップを実施しています。学外の違う世代との交流は、自己の創作活動や地域との連携にもつながっています。

伊勢崎スケートセンタープロジェクト



11年間、続いているアートプロジェクトです。施設各所に壁画を制作。また毎年違うテーマのクイズ企画を絵画ゼミ生が考案。2020年度は「雪と氷」をテーマに切手風ステッカー、エコバックをデザインし、参加者全員と抽選で当たるプレゼントを実施しました。